

健康だより

◇「高齢者ふれあいサロン」事業が始まります

今年度より町社会福祉協議会を窓口に、町も一体となった「高齢者ふれあいサロン」事業が始まります。この「サロン」とは、高齢者の方々が定期的に（例えば1か月に1回）身近な公民館などに気軽に集まって顔を合わせ、お茶を飲みながら語り合ったり、歌や踊り、健康体操、創作など参加者の希望する内容を通して、健康づくり・元気づくりをすすめていく場、笑顔でふれ合う場のことです。

高齢化が進むなか、いつまでも住み慣れた地域でみんなで助け合って暮らしていけるように、“地域の健康づくりは地域で、自分たちの健康づくりは自分たちで”と実施していくものです。ふれあいサロンでは、参加者一人ひとりがお客様でなく、主役となって楽しむことが必要です。現在、屋地区の町頭公民会では、月に1回、公民館で気軽に楽しく集まっておられますが、高齢者の方々に大変喜ばれています。

（名称：お茶呑ん場）

“自分の地域にもそのような場ができるといいなあ、そんな場をつくらしてみたい”と思われた方、町社会福祉協議会または保健福祉課健康づくり係までお問い合わせください。



1歳で～あ

毎月1番に
生まれた赤ちゃん
うちむらけんしろう

内村健志郎 chan

平成15年4月1日生



父 義博・母 智子さん
（西町）

- 好きな食べ物
ごはんとヨーグルトが好きです。
- 両親から
何事も前向きに取り組む子どもになってほしい。
- 名前は
健やかで元気に育って欲しいと願って。



の
質問箱 (81)

4月にモウソウチク林に入ると、あちこちにタケノコが天を突く勢いで立っているのが見られます。タケノコは、地面に頭を出してから3カ月で一人前のからだをつくりあげてしまい、自分が生きるために懸命に頑張っています。

タケノコのスピード生長を表す言葉に「旬」がありますが、「一句」すなわち、10日間で竹になるとの意味がこめられています。

親竹になって1年目は主に地下茎（鞭根）の伸長のために養分を送り、2年目になるとタケノコを生長させるために養分を送るという大切な働きをします。

タケノコが生長を完成する期間は、竹の種類によって違いますが、稈の太さでの差はなく、早出のタケノコは遅出のタケノコよりも日数が長くなります。また、夏にタケノコが生長するホウライチク（きんちく）は

タケノコは何か月で

親竹になりますか？

屋地 男性15歳

地下茎が短く、蓄えられた養分が少ないので急速な生長ができず、春にタケノコを生長させるマダケ（からだけ）やクロチクよりも日数が長くなるようです。一方、秋にタケノコを発生させるカンチク（こぜだけ）は春発生するクロチクと同程度であることがわかっています。

なお、稈を完成させると、それ以降は何年たっても、どれだけ肥料を与えても伸びも太りもしないのは、形成層のある樹木と異なるところです。
ちくりん指導官 浜田 甫



モウソウチクの伸長調査